

在京花巻人

発行 在京花巻人会
連絡事務所

東京都千代田区飯田橋
4-4-8 東京中央ビル603号
電話 03-6256-8082

第32回「在京花巻人のつどい」

ご参加への御礼

在京花巻人会会長 瀬川 紘一



今年も、第32回となります。まず「在京花巻人のつどい」を、7月8日(土)御茶ノ水の東京ガーデンパレスで開催することができました。これも一重に、日頃から会を支えてくれております会員の皆様や関係各位のお蔭と、改めて感謝を申し上げます。又、当日は多くの来賓として会員の皆様、総勢百三十名にご参加を頂きました。誠に有り難うございました。

今年も、毎年司会でお馴染みの伊藤佳子アナウンサーが取材で欠席となり、代わりに石鳥谷出身

のフリーアナウンサー藤原あかねさんに司会をして頂きました。司会の開会宣言に続き、会長の私の挨拶で「平成29年度総会の部」をスタート、平成28年度の活動報告・決算報告、平成29年度の活動計画・予算案を説明、滞りなく可決頂きました。



上田東一花巻市長

11時30分から始まった「交流会」では、花巻市長上田東一様からは、東アジアU-22ハンドボール選手権を誘致し7月2日大成功裏に終了したこと、中心市街地に交付金を活用して30戸の災害公営住宅が建設されることになったこと等々、力強い説明があり私達も花巻市の活性化への新たな動きをしっかりと認識することが出来ました。花巻市議会議長の小原雅道様

からは、議会としても花巻市の活性化に真剣に取り組んで行くとのことご挨拶がありました。乾杯は、昨年の選挙で参議院議員になられた材木町出身の木戸口英二議員から、自己紹介のご挨拶に続いてご発声を頂きました。久しぶりの花巻出身の国会議員で、しかも若くて気さくな人柄が参加者に好印象を与えたのではないのでしょうか。暫く歓談の後、津軽三味線民謡富士政会の会主であります千葉政光さん(在京東和町友会 副会長)と同会歌手の徳田絹江さんが出演し南部・津軽民謡を演奏、力強い津

からは、議会としても花巻市の活性化に真剣に取り組んで行くとのことご挨拶がありました。乾杯は、昨年の選挙で参議院議員になられた材木町出身の木戸口英二議員から、自己紹介のご挨拶に続いてご発声を頂きました。久しぶりの花巻出身の国会議員で、しかも若くて気さくな人柄が参加者に好印象を与えたのではないのでしょうか。暫く歓談の後、津軽三味線民謡富士政会の会主であります千葉政光さん(在京東和町友会 副会長)と同会歌手の徳田絹江さんが出演し南部・津軽民謡を演奏、力強い津



平成29年度(第32回) つどい収支決算表 (単位:円)

収入	支出	差引残高	摘要
780,000			会員参加者88名 9,000円×88人=792,000円 (内夫婦参加4組、1組3,000円戻し) △12,000円
315,000			来賓参加者35名 9,000円×35名=315,000円
300,000			一般会計から補助
37,000			寄付金
	1,086,112		ホテルへの支払
	89,600		お土産(賢治最中) 640円×140ヶ
	6,628		ウェルカムドリンク用ワイン
	73,440		つどい案内、ハガキ印刷 *1,000枚
	100,000		司会及びアトラクション
	30,000		吊り下げ看板制作代
	13,977		ハガキ回収代
	2,260		荷物搬送料
	1,620		のし袋 他
1,432,000	1,403,637	28,363	差引き残高28,363円は一般会計に戻し入れた。

コーナーで、毎回お馴染みの及川慎先生の指導の下、「種山が原」「星めぐりの歌」「精神歌」の合唱で閉会となりました。今回も多くの会員、関係各位のご協力によって有意義な会を開催できましたことに改めて感謝を申し上げますと共に、今後も一層のご支援をお願い申し上げます。

平成30年度「第33回在京花巻人のつどい」のお知らせ

日時:平成30年7月7日(土) 午前11時~午後2時
 会場:東京ガーデンパレス
 住所:東京都文京区湯島1-7-5
 電話:03-3813-6211
 アクセス:JR御茶ノ水駅 聖橋口改札徒歩8分 他

『在京花巻人のつどい』に参加して



花巻市地域振興部

部長 市村 律（きつ）

去る7月8日、お茶の水の東京ガーデンパレスで盛大に開催されました「第32回在京花巻人のつどい」にお招きいただきまして誠にありがとうございました。当日は梅雨のさなかにもかかわらず、岩手も東京も最高気温が35度近くまで上がりましたが、東京は岩手と違って朝晩も気温が下がらないためでしょうか、地表の温度が高く、空気が吹く風も生暖かく、ヒートアイランドの厳しさを体感いたしました。

私が所属する地域振興部は、人口減少対策や地域再生等の取り組みを実践し、地域づくりを担うために、平成29年度の花巻市の組織改編によって新たに設置された部でありまして、総合政策部から移管された「地域づくり課」と新たに設置し

た「定住推進課」で構成しています。地域づくり課では、引き続き在京花巻人会をはじめとする在京人会の活動の支援を行うほか、27のコミュニティ地区を基本とした地域の自主的なまちづくりの支援や市民参画・協働の推進などに取り組んでいます。

また、定住推進課では、人口減少対策として移住・定住に関する施策を統括するほか、空き家バンクの運営と空き家を活用する方々への支援や地域おこし協力隊、ふるさと納税に関する業務などを担っています。定住推進課内に併せて新設した「6次産業推進室」では、農林部や商工観光部、各総合支所と連携して6次産業化を推進するほか、「花巻クラフトワイン・シードル特区」の活用に向けた取り組みを進めています。

今後も瀬川会長様をはじめ、在京花巻人会の会員の皆様のご支援、ご協力をいただきますながら、ふ

るさと花巻のさらなる発展に努めて参りますので、引き続きのご厚誼を賜りたくよろしくお願いたします。



畠山 真

(湯本中47年卒)

七月八日(土)に在京花巻人のつどいが、湯島聖堂近くにある「東京ガーデンパレス」で盛大に行われました。

私にとっては初めての参加でありましたが、受付を済ませた所で瀬川会長より声をかけられて、とてもほっとした気分です。臨むことができませんでした。知っている人はほとんどいないだろうと思っ

た方々もたくさんいるのだと感心しました。挨拶される方々や参会者の方々がとても元気で発刺と話されている姿がすばらしいと思いました。

途中で津軽三味線と民謡の演出もありましたが、流暢な三味線の音色に合わせ、とても声に張りがあり立派な民謡だなと思いました。

会の最後に宮沢賢治の歌を全員で歌いました。「賢治を歌う」ことで花巻出身の皆さんが賢治に対して特別な思いでいるのだらうと思えました。実は、私は小学校に勤めているのですが、六年の担任をもった時は必ず卒業式の日に賢治の「雨ニモマケズ」を朗読して送り出し、校長となった今では卒業前に各学級で「雨ニモマケズ」の授業をしています。子どもたちに少しでも宮沢賢治の生き方、考え方を学んで卒業してほしいという思いからです。この最後の歌を聞いていて、宮沢賢治の遺志が脈々と受け継がれてきていると思えました。

私が、この花巻人のつ



佐々木克敏

(花中52年卒)

どいにお誘いを受けたときは、初めてで気が引けるなと思いましたが、皆様方が積極的に声をかけてくださり、二次会もさらに盛り上がり元気に語り合っていた姿を見て、参加してよかったです。

これからも三十二回も続いているこの花巻人会がいつまでも末永く続くことを願っています。

海だべがどおらおもたればやっばり光る山だたぢい
木ウ
髪毛 風吹けば
鹿踊りだぢい
(宮沢賢治の詩「高原」より)
この花巻弁による賢治方言作品を聞いて郷愁を覚える方も多いのではないのでしょうか。同郷の人々との語らい、花巻弁で酒を酌み交わす楽しさ。様々な年代の、又、出身中学も多様な集い。新たな出会いとふるさとへの発見。よくよく聞い

てみたら、実家が近所同士だったとか。そんな魅力が「在京花巻人会」にはあると思います。

会長はじめ、役員の皆様方の常日頃のご尽力に敬意を表するともに、深く感謝するものがあります。お聞きしますと、つどいも今年32回とのこと。活動方針、事業計画について、会長より縷々、ご説明・提案がありました。

会員同士の交流・親睦。ふるさと花巻の活性化への貢献。

まずは、自身も交流を深めようと、秋の県人会ゴルフ大会への参加を工ントリーしました。

昨今、国と地方が一体となり日本の将来の課題に対して総合戦略を策定しています。それが「花巻市人口ビジョンと花巻市まち・ひと・しごと創生総合戦略」です。この取り組みは、地方だけの問題にとどまらず、東京の将来をも決するものです。是非会員の皆様とともに、一緒に考え、出来る事から実行していく、そんな思いを強くしたつどいでした。

平成29年 在京花巻人のつどい



会員の活動報告コーナー

岩手県人連合会の集い

副会長 高橋 良光
 6月7日(日)、日暮里
 駅近くのホテルラング
 ウッドで43回目の県人連
 合会の集いが開催されま



した。11時に開会、今年
 連合会会長の交代が有
 り、新旧会長の挨拶。新
 会長は鈴木文彦氏で盛岡
 市出身、昭和21年生ま
 れ、東京盛岡ふるさと会
 の代表者です。次に会務
 報告、来賓者の紹介等で
 総会は終了。

今年度の出席者は来賓
 を含む約360名。来賓
 者は国会議員をはじめ、
 県内市町村の組長、東京
 に有る県との関係機関の
 役員等でした。

花巻市からは市長の代
 理で地域づくり課の佐藤
 多恵子課長の出席、他に
 花巻出身で木戸口英司参
 議院議員の出席が有り在
 京花巻ふるさと会の出席
 者と交流を計っていました。

在京花巻ふるさと会か
 ら19名出席し、各団体の
 中で一番の参加数で、県
 人会への花巻パワーをア
 ピールできたかと思いま
 す。アトラクションは
 「隅田川かつぼれ」「南京
 玉すだれ」「民謡」等で
 賑やかでした。帰りには
 昨年から市場に出た新

種の「銀河のしずく」と
 いう名称のお米を頂戴し
 ましたが、このお米は10
 年以上もかけて品種改良
 した結果、まるやかな甘
 味があり、粘りけがあつ
 て美味しいと評判です。
 閉会は14時で和やかな
 雰囲気の中で解散でし
 た。

近隣ふるさと会役員懇親会に参加して

理事 板垣 雅子

6月18日(日) 近隣ふ
 るさと会役員懇親会が錦
 糸町の東武ホテルレバン
 トで開催されました。近
 隣ふるさと会には大迫、
 石鳥谷、東和、花巻、そ
 れに北上、金ヶ崎、紫
 波、矢巾の各在京ふるさ
 と会8団体が参加してお
 り、今回は紫波ふるさと
 会の幹事で約50名が参加
 しました。花巻人会から
 は役員5名が出席し懇親
 を深めました。

藤原洋雄会長のご挨拶
 の後、在京金ヶ崎人会の
 小島守正名誉会長の乾杯
 の発声。昔この会が始
 まった頃の名称が「笑う
 会」と称していた通り、
 会ごとこの自己紹介が済め
 ば後は食事をしながらの
 お楽しみ。皆さん思い思

いのテーブルへ移動し談
 笑して楽しそうでした。
 途中ビンゴゲームがあ
 り会場内が盛り上がりま
 した。会場の外には産直
 品が並び買物を楽しむ
 方々も多かったようで
 す。そんなのんびりとし
 た楽しい時はあつと云う
 間に過ぎ、紫波町の名産
 品であるもち米をお土産
 にいただいたり帰宅の途に
 つきました。

第3回「全国ふるさと 甲子園」に参加

副会長 高橋 良光

8月26日(土)秋葉原駅
 前ビルのイベント会場
 で、映画・テレビドラマ
 のロケ地となった全国の
 各自自治体がそれぞれの
 当地グルメの魅力を競い
 合う「全国ふるさと甲子
 園」が行われました。
 来場者の投票数で、行
 きたくなるふるさとナン



バーワン」を決める催し
 で、全国から55団体が参
 加、花巻市も初めて参加
 しました。花巻でロケさ
 れた映画は平成27年に公
 開された「海街diary
 y」。この映画の最初に
 映し出された画面が鉛温
 泉の藤三旅館と大迫小学
 校近くにある向山森林公
 園の展望台からの風景
 で、出演者は長澤まさみ
 さん・綾瀬はるかさん、
 主なロケ地は鎌倉とのこ
 とでした。花巻からは高
 源精麦の白金豚、高橋葡
 萄園のワイン他2店が出
 店しており、瀬川会長始
 め在京花巻ふるさと会メ
 ンバー10名で花巻のグル
 メを食べ、ワインを飲
 み、お土産を買い、応援
 して来ました。

入場者の投票で決める
 「行きたいまち」のグラ
 ンプリは映画の「こいの
 わ 婚活クルージング」
 の舞台となった広島県尾
 道市、準グランプリは映
 画「海賊と呼ばれた男」の
 ロケ地千葉県勝浦市で、
 10位まで発表
 されましたが、花
 巻市は入賞しませ
 ないことにもう一

つこの投票、惣菜部門で
 花巻の「白金豚のハム・
 ベーコン」が4位に入賞
 し、美味しさを大いにア
 ピールできたようです。

祝!! 高橋 光夫さん 長年描き続けて 『藍綬褒章』を受章



高橋 光夫さん
(世間26年卒)

在京花巻人协会会员 高橋
 光夫さん(82才)市原市在
 住)は、昨年11月受賞に
 輝いた。藍綬褒章は社
 会や公共の福祉、文化
 などに貢献した人を顕
 彰する日本の褒章の一
 つ。第一美術協会会員
 など多くの役職を務め
 る傍ら、池袋三越や千葉
 そごうなどで個展を毎年
 開催し活躍されています。
 幼い頃から宮沢賢治や
 高村光太郎に憧れ、岩手
 県立美術工芸高等学校・
 油絵科を専攻。大卒後は
 公職につき定年後は特に
 広域に絵画の普及指導に
 携わる一方で、地元
 の「コミュニティーセンタ
 ー」での絵画教室も大変な人
 気です。

《はなまき あれこれ》

花巻市で「第5回東アジアU-22ハンドボール選手権大会」開催

日本、韓国、中国、台湾、香港の22歳以下の各男女チームが優勝を争うハンドボール大会が6月26日から7月2日まで花巻市の総合体育館で開催されました。

同大会は、若手の選手強化を目的に東アジアハンドボール連盟が主催、平成25年にスタートし今回は第5回の大会で、上田市長の働きかけにより日本で初の開催の誘致が実現したとのこと。ハンドボールの国際大会を観戦するまたとない機会でした。

試合は男女各チームが20試合を戦いましたが、最終日に日本は男女とも強豪韓国と対戦、男子は韓国

に30-22で競り勝ち悲願の初優勝を飾りました。韓国に勝ったのは今回が初めてとのこと。花巻市民は関係者とともに大感激でした。女子は、善戦しましたが韓国に20-24で惜敗、2勝2敗で3位に入賞しました。日本初の開催となった今大会に参加した選手たちは「会場を訪れた多くの観客の声援が力となり結果に結びついた」と話していました。(広報はなまき6/1、7/15号より)



「ネクタイを締めた百姓一揆」完成と上映会について

会報6月1日号で紹介した自主製作映画「ネクタイを締めた百姓一揆」が完成しました。6月に実施された花巻での最初の上映会では1200人の市民が鑑賞、評判も上々だったとのこと。昭和46年、東北新幹線建設にあたり花巻市が停車駅の選定から漏れていましたが、市民の中から有志が立ち上がり、14年間に及ぶ運動でついに新花巻駅が誕生するという実話。平成26年9月に自主製作体制によりクランクイン、スタッフやキャストは全て花巻や県内各地からのボランティアが製作に取り組みました。

花巻での上映会に続いて岩手の各地で上映会が予

定されていますが、いずれ首都圏でも是非上映会をやりたいとのこと。7月8日の「在京花巻人のつどい」には、上映実行委員長の小原良猛さんが花巻から駆け付け挨拶され上映会の報告がありました。

※訂正とお詫び

会報6月号の「新花巻駅を題材とした自主製作映画『ネクタイを締めた百姓一揆』」の記事の中に「6月完成予定が遅れて年内上映を目指して努力中とのこと。」とありますが、今年6月には映画は既に完成しており上映会も開催されました。誠に申し訳なく、訂正し心より謝罪を申し上げます。(会長 瀬川紘一)

中心市街地に「災害公営住宅」30戸建設

花巻市は、6月29日市議会の本会議終了後の議員説明会において、「災害公営住宅整備事業」の概要について中間報告を行いました。

それによると、災害公営住宅の内陸での建設は一般的には県が実施するのが多いのですが、この事業は花巻市が事業主体となり実施されます。市が取り組んでいる花巻市立地適正化計画に基づく都市政策とも合致するとの判断で決断されました。

整備地区は、都市機能誘導区域の中心部である「まちなか」の上町、仲町の民有地とし、被災者の方々にとっても居住環境の良い住宅30戸が建設され

ることになります。平成28年度には、既に用地の測量や地質調査、それに基本設計などの事業が実施されており、完成は平成30年度末、入居開始は平成31年度を予定しています。

なお、用地買収や建築工事費等については復興交付金事業として補助率8分の7、国費1億8748万1千円が充当されます。

この事業が、被災者にとって生活利便性のある住宅を確保すると共に、花巻市の中心市街地活性化にも役立つことが期待されます。

(「てる省の市政ニュース」7/12号より抜粋)

「花巻市空き家バンク制度」について

花巻市の空き家バンク制度は、平成27年度に始まり現在3年目を迎えています。この制度は、空き家を「売りたい・貸したい」所有者と「買いたい・借りたい」定住希望者を市が橋渡しし定住を支援するものです。

市内で空き家バンクを利用したいという相談件数は年間100件、空き家バンクには平成29年3月31日現在で97件の空き家が登録されています。成約数は平成27年度17件、平成28年度16件で通算33件となっています。

成約となった場合、リフォームや引っ越しの費用

の総額の2分の1を限度額内(売買200万円、賃貸100万円)で補助され、空き家所有者にも10万円が交付されます。又、岩手銀行の「いわぎん空き家活用・解体ローン」を利用する移住者は通常より優遇された金利で融資が受けられます。

昨年4月、空き家バンクを利用して仙台から松園町に移住した高橋朋矢さんは、リフォームの支援が充実しているのが魅力だったと話し、空き家バンクの利用を勧めています。詳しくは本庁定住推進課(0198-24-2111、内線214)へ問い合わせ下さい。

(広報はなまき5/1号他から)



物語の里の思い出

「なめとこ山の熊」



会員 佐々木 伸行
(豊沢中31年卒)

〈はじめに〉

もつ十七年前になる。花巻温泉で開いた小学校同級生の還暦祝の席で、豊沢会から額入りの写真と頂いた。秋、ダム貯水量が減った時に現れた集落跡の写真だ。「祝還暦」と「我が故郷豊沢を永久に忘れないように」と書かれてある。忘れることなど出来ないが、その後も永くご無沙汰の故郷だ。その山里に暮らした遠い昔を書いて見た、熊獲り猟師のこと、物語に登場する事柄なども。

「なめとこ山の熊」に関する天沢退二郎氏の解説にこんな個所があった。「この物語は固有名詞が主人公の物語とも言える(略)……見事な固有名詞の羅列……」物語には、実名、又そのアレンジと考える懐かしい名前が続く。実名では、なめとこ山、大空滝、白沢、中山街道、鉛の湯(鉛温泉)など。アレンジと思われるのは、淵沢川(豊沢川)、マミ穴森(高マミ山)、バツカイ沢(落沢)、三つ又(三ツ口)などだ。土性調査に歩いた豊沢の山や谷に、賢治は主人公を縦横に歩かせたのだと思った。物語舞台の鮮明さは、そこに住んだ者の特権だと思っている。但し風景は、集落にまだ人々の生活があり、私が右手を後にした六十年前のものだが。

た横に、獲った熊が雪まみれで括りつけられている。一緒に出て来た先生が尋ねた、「なめとこ山ツのはアルノス力?」松橋さんは道の奥の方を指して答えた。「三ツ口の向こう、栗石の方……」声は低かったが、物語の山の實在を知った時だった。熊の解体作業を時々見に行った。冬眠中の熊の厚く真つ白な皮下脂肪の層、臓器の名を教えてもらった事などを思い出す。作業は縁側に薙(むし)り敷いて行われていた。他の子供達が厭(いと)まなくて、いなくなっても一人残って見ていたことがある。そのうちに「そっちを持ってケロ!」「足引っ張れ」などと手伝いをさせられた。結構楽しかった。「スケデケダンダ、熊汁喰ってげって!……」ヨバツテコって!……」帰ろうとすると、家の女の子(上級生)が呼びに出てきた。その時は一人だけで大人の中に入るのに気後れして、振り切った。帰ってしまった。惜しいことをしたと思う、熊汁の味も。作業した人達や勝治さん、ご家族な

ど、いろりを囲んでどんな話が交わされていたのだろう。ダムの底にまだ人々の営みがあった頃の貴重な体験を逸した、その悔いは今も残る。

生け捕った小熊も見せてもらいに行ったことがある。まだ目の開かない小熊を二匹、麻袋から掴み出し土間に降ろして見せてくれた。

中学生になる時、ダム建設に伴い水没地区に有った松橋家は町の方に移住した。学校は二キ口ほど上流、幕館の豊沢川本流と桂沢の合流部の高台に新設されて、我が家も併設の宿舎に移った。小学校では十人以上いた同級生も移住し減って行



〈中山街道・大空滝〉

幕館に移って中山街道の賢治が描いた部分が近くなかった。描写は正確だった。荷車くらは通れそうな道幅一面に疎(うす)らに草が生え、その中に一条、人の踏み道が続いていた。道が峡谷部に入る前に、丸木を縛って作られた柵が横切っていた。道を遮る部分には両側から梯子状の踏み段が架けられていて、人は越えて

き、中学では男女二名ずつの四人となった。近年、前述の「熊汁を食べていけ……」と呼びに出て来た松橋さんの娘さんに会って聞くと、移住して後しばらくは豊沢へ山の仕事をしに行っていたと言った。町ではすぐに仕事は無かったのだとのことだった。松橋勝治氏は秋田県から移り住み、その父和三郎氏と「なめとこ山の熊」の物語着想のモデルとされている。なお、花巻図書館に「豊沢平和卿、移転三十周年記念」が収納されていて勝治氏のご子息勝美氏の文があり、当時の猟師の生活が書かれている。



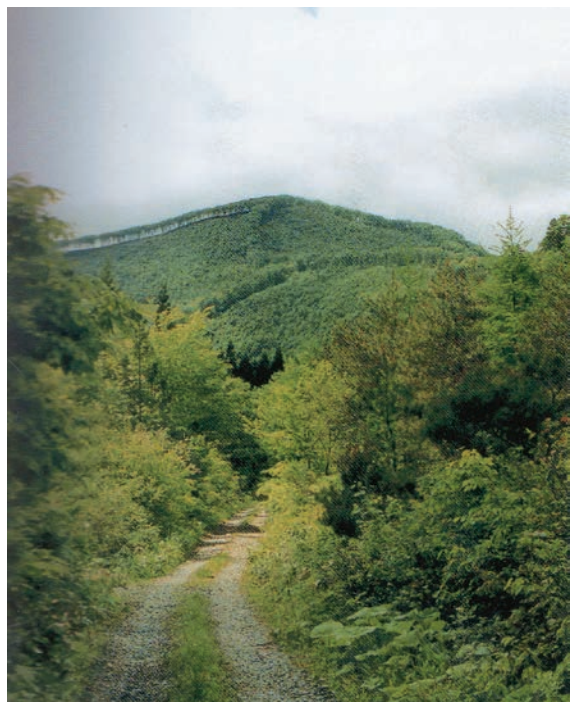
往来出来るようになっていた。物語では「牛が逃げて登らないように」と書かれているが、こは逆で、柵は放牧した牛が里へ戻るのを防いでいた。柵から大空滝へガサガサ行く距離も描かれた通りだ。

初めて大空滝まで行ったのは、町からハイキングに来た親戚とその仲間を案内した中学一年の夏だった。途中、林が開けたところで、列の最後尾当たりから山鳥が激しい羽音をたて飛び立ち、先頭を行く私の横を飛び過ぎた。その重い羽音は心もとない案内人を驚かせた。当時はハイキング等に行く人は殆ど無く、案内標識なども一切なく、滝も道からは見えない、谷に降りる杣道（まきみち）があるたびに確かめに降りる。賢

治は道から滝が見えたと描くが、私の行った夏には見えなかった。前に行った事のある母が大空滝の印象を今も言う、「何も見えない上の方から滝が落ちてくる、名前の通りだった」。百歳近く認知症だが豊沢の記憶は鮮明だ（然しネット上で見る今の滝は、林を切り開き夏でも見える）。

街道はなだらかに登って行くが、そこから沢までの杣道は崖にちかい傾斜で、昇り降りはずついに滝があった。沢の水が垂直に滝壺に落ちていく、ヨドメ（魚止め）の滝だ。これより上流に魚はいない、足元を大きな岩魚が滝壺へ走った。何回目かの偵察で大空滝へ着いた。岩を登って遊び弁当を食べ、帰りは沢を下った。ヨドメの滝から下流では岩魚の手掴みをしながら下り、尺超えの岩魚も何匹か獲った。家に着き私が岩魚を焼き上げる間、一休みした客人たちは鉛の駅まで十キロの道を帰って行った、焼いた岩魚を齧りながら。

中山街道は花巻から沢内までの古道だが、花巻から鉛温泉までは電車も通る道、鉛から豊沢・幕舘までは薪炭など物資運搬の馬車（馬櫓）等も通る日常の道、そこから先の桂沢沿いの道は、山菜・キノコ採り、栗拾い、岩魚獲りなどの私達子供遊びの場への道、牛の放牧、山仕事の里人のみの道となっていた。賢治の描く、「このごろは誰も歩かないから……」（旅人の通行、物資の移動が無くなった、の意だと思う）は幕舘から沢内までの部分だ（豊沢では、この部分を中山街道と呼んでいた。物語もそれに倣っている）。沢内、秋田側との通行が平和街道、鉄道横黒線など和賀川沿いのルートの発達により街道機能を失ったもの、と思っている。古くは秋田側と岩手を結ぶ古道、善知鳥越から沢内・豊沢を経て花巻への道として沢内からは中山街道使われていたらしい。



なめとこ山

また、中山街道は「新渡戸家が整備」と書いたものを見た記憶がある、花巻城の沢内統治上必要な道であったのかも知れない。豊沢に「おかね茶屋」と言う屋号の家があった、旅人が行き来していた頃の街道の名残かと思ったりする。

〈野生の熊〉
今、古里の道に「熊に注意」の標識があり、人里でも熊の目撃も増えている。豊沢で野生の熊を目撃したことは無かった。ただ一度だけ存在を近くに感じたことがある。中学三年の時、たった一人の男子同級生と歩いていて老人の叫び声を聞いた。聞き取れなかった私に「クマのシシ！熊のことだ！」と教えてくれた。声は畑の方から、二人で走る。「人里に迷い出るとせ小さい奴、先回りだ！」だが間に合わなかった。畑には足跡だけが残っていた、しかも「デカい！」爪の痕までくつきり残っている。そして点々と続いて行く先の落葉松林は私の帰る道だ。ビクビクしながら、夕暮れの林の道を一人急いだ。これが野生の熊を身近に感じた只一度の経験だった。
(関西若手県人会会報に掲載)

親睦
交流

第21回 歩こう会

池上本門寺から馬込文士村を巡り大森山王へ

会長 瀬川 紘一

5月20日(土) 暑い真夏日になりましたが参加者総勢45名、東急池上線の池上駅に10時に集合、池上本門寺の参道からスタートしました。

くず餅屋さんが並ぶ参道を本門寺の総門へ。総門を入ると加藤清正が寄進したと言われる急な石段。健脚な参加者は正面の険しい階段を、足に自信のない参加者は横に設置された緩やかな階段を登って境内に到着。

見どころは重要文化財の五重塔や仁王門、それに本堂や経堂などを参加者は三々五々見て回りました。五重塔の脇には幸田露伴のお墓がありましたが、力道山のお墓が有名で多くの参加者が真っ先に詣でていました。

11時20分に本門寺を後にし西馬込駅に向かい、西馬込駅近辺で昼食を取り、13時に再び西馬込駅前に集合し午後の部がスタートしました。

10分ほどで大田区郷土博物館に到着、区内の遺跡、馬込文士村、大田区の産業などの展示を見て大田区についての理解を深めました。

1時間ほどで郷土博物館を出発、環七を突き切って山王へ。30分ほどで徳富蘇峰の住んだ家を保存している山王堂記念館に到着、雑誌「国民の友」や「国民新聞」を創刊した偉大な言論人を偲びました。次に、山王堂記念

館から20メートルほど下ったところにある尾崎士郎旧宅の記念館を訪問、庭から見る展示物は人気のある人生劇場関連の資料など豊富でした。

最後は、大森駅に近い大森貝塚遺跡庭園へ。90年ほど前に米人E.S.モースが発見した貝塚を一部再現した公園で縄文後期の貝塚の様子を窺うことが出来ました。

今回歩いた大田区は、訪れる機会の多くない場所だったので興味を持たれた方も多かったようです。大森駅近くでの二次会には25名ほどが参加、疲れたぶんビールがことのほか美味しく会話も弾みました。



29年度年会費納入のお願いと 納入状況の報告

①年会費納入のお願い

会員の皆様には在京花巻人会の運営にご協力をお願いありがとうございます。

お振込みいただいた年会費は、会員の親睦を兼ねて毎年7月上旬に行っております「在京花巻人のつどい」、又、年3回の「会報」の発行、年2回の「歩こう会」等に使用させていただいています。

今年度の年会費のお振込みがまだの方は、6月1日付・第51号会報送付の際に同封しました赤い振込票(手数料不要)で、近くの郵便局より下記口座へ3,000円をお振込み下さいます様お願い致します。

記

口座名義 在京花巻人会
口座記号番号 00240-6-111794

②年会費納入のお礼と納入状況

29年度の年会費納入は、8月31日現在241名723,000円となっております。

皆様のご協力に感謝とお礼を申し上げます。

会計担当 高橋良光 板垣雅子

北山公路氏 著

「マルカン大食堂の奇跡」のご紹介

シャッター通り化している上町の商店街の中で多くのお客様に愛されてきた『マルカン大食堂』が再建される経過について北山公路さんが書かれた本が5月に出版されました。(双葉社、本体1300円+税)

本では、閉店のニュースにまず高校生達が存続運動を始め、その輪が多くの市民の署名運動に広がりついに再開オープンに漕ぎつけるとい、わくわくする話が花巻で展開される模様が描かれています。

又、八重洲ブックセンターの売り場では、地方の商店街の再生に向けて、全く新しい手法で取り組んだ『地方創生物語』として6/1～7/17店内で出版記念のパネル展を実施し、ホームページでも全国的に話題を広めました。

このことは、自分達の街を大切にしたいという若い市民感情の盛り上がり、新しい視点で街の活性化を図ろうとする上田市長の政策に、若い企業家達が大きく動き出した事を示していると思います。一読をお薦めします。

(在京花巻人会 副会長 畠山 秀)

